



平成20年2月11日

各 位

会社名 住友重機械工業株式会社  
代表者名 代表取締役社長 中村吉伸  
コード番号 6302  
問合せ先 IR広報室長 大島秀夫  
TEL 03-6737-2333

## 米国の半導体製造装置メーカー、アクセリス・テクノロジーズ社 に対する買収提案に関するお知らせ

当社は、平成20年2月4日に米国の半導体製造装置メーカー、アクセリス・テクノロジーズ社（以下「アクセリス」といいます。）に対する買収提案を行いましたのでお知らせいたします。

### 記

#### 1. 買収提案の概要

当社は、アクセリスの全株式を1株あたり5.20米ドルの現金で買収することを提案いたしました。この金額は、2008年2月8日のNASDAQ市場におけるアクセリス株式の終値に対して28.7%のプレミアムを加えた金額です。この買収が実現した場合、買収総額は約5億4400万米ドルとなります。また、米国の大手プライベート・エクイティ投資会社であるTPGがマイノリティ株主として参加します。

#### 2. 買収提案に至った経緯及び買収の目的

当社は1983年に米国イートン社との折半出資により株式会社SEN-SHI・アクセリスカンパニー（以下「SEN」、当時の社名は「住友イートンノバ株式会社」）を設立し、半導体製造装置の一種であるイオン注入装置のビジネスに参入しました。2000年にイートン社の半導体製造装置事業がアクセリスとして独立して以降もアクセリスとパートナー関係を築いてきました。近年、半導体メーカーの集約化・巨大化と、設備投資金額の飛躍的な増加および開発スピードのアップに伴い、半導体製造装置メーカーに対する顧客からの要求水準も非常に厳しくなっています。このような市場環境の中、この事業で生き残り、かつ世界No.1のイオン注入装置メーカーとなるためには、当社がアクセリスを買収することによって、アクセリスとSENの商品開発力、技術力、顧客基盤を一体化することが最善の施策と考えています。また、これはアクセリスの株主に対しても利益をもたらすものであるとの認識から、これまで約18ヶ月間にわたって繰り返しアクセリスの取締役会に対して有意義な議論に入るよう呼びかけてきました。しかしながら、アクセリスの回答は常に、今はその時期ではなく、当社の提案は受け入れられないとするものであり、一方、この間にアクセリスのマーケットシェアと業績は大幅に悪化してしまいました。当社は、アクセリスとSENを一体運営し当社の有する技術と資本を生かしてイオン注入装置メーカーとして世界における競争優位を確立できると考えています。アクセリスの買収に

ついてこれ以上の時間を費やすことは双方にとって決して好ましいことではないと判断し、アクセリスの株主、お客様、従業員の皆様に、当社の提案についてご承知いただくこととしました。なお、当社はアクセリスと有意義な議論を経た上で友好的な買収を行うことを目指しています。

### 3. 対象会社の概要

商号	アクセリス・テクノロジーズ社 (Axcelis Technologies, Inc.)
代表者	会長兼CEO メアリー・プーマ (Mary G. Puma)
所在地	米国マサチューセッツ州ベバリー市 (108 Cherry Hill Drive, Beverly, Massachusetts 01915)
設立	1995年
主な事業の内容	イオン注入装置の製造・販売
決算期	12月末日
発行済株式数	102,247千株(2007年12月末現在)

#### 最近事業年度における業績の動向

(単位：千ドル)

	2007年12月期	2006年12月期
売上高	404,800	461,717
営業利益	20,663	23,741
当期純利益	11,398	40,770
総資産	669,929	753,993
株主資本	486,006	477,562

### 4. TPG の概要

TPG は、米国を拠点とし、490 億ドルの資産の運用を手がける、世界で五指に入るプライベート・エクイティ投資会社です。投資先企業とパートナーシップを組み、中長期的な視点で事業価値の向上を追求する「バリューアップ・ファンド」と自らを定義しています。幅広い地域・業界に属する企業への資本参加、事業運営を成功に導いた実績を有しています。現在 TPG が経営に参画している投資先企業は 50 社以上を数え、合計 55 万人の従業員が集い、およそ 1,140 億ドルの年間売上高が生まれる、大きな企業ネットワークを形成しています。この規模は、米フォーチュン誌の企業売上ランキングにおいて、第9位に相当します。

### 5. 業績への影響

アクセリスとはこれまでのところ本件について具体的な交渉には入っておらず、当社の業績への影響等につきましては、必要に応じて適時に開示いたします。

以上